

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

中国の「国境文化」の人類学的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5668

雲南におけるイスラーム回帰現象と中阿学校

世俗化・漢化は克服できるか

松本 ますみ (敬和学園大学)

はじめに

多民族居住地である雲南省には公式統計によれば約 69.8 万人 (2010 年) の回族 (漢語を話すムスリムで、イスラームを抛り所にした宗教的エスニシティ) が住み、雲南の少数民族の中でも上位を占める。歴史的には元時代以来、中央アジアから移り住んだムスリムが定住した。清代には馬注や馬徳新など博識のイスラーム学者を輩出し、独自の中阿 (漢語とアラビア語) 兼学のイスラーム文化を育んだ場所でもある。清代 1850 年代半ばから 70 年代には大規模な「回民起義」 (回民とは、中華人民共和国以前、漢語を話すムスリムに関する一般の呼称。「起義」とは、マルクス主義的呼称。蜂起のこと) が引き起こされた。この蜂起は「叛乱勢力」と断定され、回民は清朝側の大弾圧・大殲滅にあい、大きく人口を減らしたという負の歴史も背負っている。

中華人民共和国になっても災禍は止まらなかった。反右派闘争、文化大革命期において、宗教勢力は階級の敵・保守反動勢力として恣意的な大弾圧を受け、清真寺 (モスク) や宗教学校 (マドラサ: アラビア語学校、イスラーム学校や中阿学校などとも呼ばれる。伝統的に経堂と呼ばれた) など宗教施設の多くは破壊された。宗教教育は全面禁止され、宗教指導者 (阿訇 アホン)・学生は「打倒」され、「労働改造」と称する強制労働に駆られたり、甚だしきは暴力で死に追いやられたりした。文革末期の 1975 年には悪名高い「沙甸事件」が起き、人民解放軍が無差別発砲、公式見解でも 900 名以上が殺された。それほどでなくても一般の回族は養豚を強要されたり、井戸に豚の骨を投げ込まれたり、女性の蓋頭 (ヴェール) は全面禁止されたり、長い髪は強制的に切られたりした。社会的混乱の中、失われた宗教関係文献や知識も多い。極左社会主義路線の中でムスリムであるということ、信仰という内面の自由をもつこと自体が完全に否定されたのである。この時もムスリムであることは潜在的「叛乱勢力」とみなされたといえる。

文革が収束し、80 年代に宗教活動が大復活を遂げた。これを宗教狂熱という。それから約 30 数年を経た現在 (2012 年)、回族は雲南におけるプレゼンスは比較的高い。それは、各地の回族集居地に聳え立つ再建・補修された各種清真寺、各種中阿学校、地方風味のハラール・レストラン (清真餐厅) といった可視化された施設で行われる宗教儀礼や習慣以外、彼らの強固なムスリム・ネットワークが婚姻の機会のみならず運輸業といった生業、最近は通訳・通商業務といった就業・ビジネスの機会を提供しているからである。近年はムスリム専用ホームページ (中穆網) などで情報交換がさかんにされている。

雲南各地に回族集住地が点在するが、本論ではフィールドリサーチを 2007 年 3 月、2009 年 9 月に二度にわたって行った西部の 1) 巍山県、2011 年 3 月に行った北部の 2) 昭通市、2007 年 3 月、2012 年 8 月に 2 度にわたって行った南部の 3) 個旧市沙甸、2009 年 9 月に行った中部の 4) 楚雄市南華県の例を挙げる。前 3 者はイスラーム教育とイスラーム熱の非常に高い所であり、後 1 者はイスラーム熱が比較的低調な所である。

これらの例を挙げながら、回族のイスラーム回帰の動向、イスラーム教育のありよう、ヒトと知識の移動、さらには世俗化の危機の克服について考察することにする。

1. 回族の世俗化と中阿学校の概況

世俗国家体制の中国は、小、初中（日本の中学校）、高中（日本の高校にあたる）では私立学校であっても国家の定めた世俗的カリキュラムを遵守する。日本でいえば、学校教育法に定める「一条校」が中国では一般に「国民学校」「公弁学校」と呼ばれ、そこで行われる教育を「国民教育」と呼ぶ。本論では、便宜的に「公立学校」「公教育」としておこう。

回族に関しては、保護者から要望の強いアラビア語教育は公立学校では一般的になされない。これは、モンゴル族、チベット族、ウイグル族、朝鮮族などが自治区、自治州内の民族学校で民族語を教授言語として学ぶことができることと対比をなす⁽¹⁾。アラビア語が教えられない理由として、アラビア語は回族の日常言語でなく宗教言語であること、師範学校卒業生にアラビア語ができるものがないことなどが挙げられている（Matsumoto and Shimbo 2011: 90-93）。公立学校では英語が外国語とされる所がほとんどで、最近はその学習開始時期も小学校の低学年はおろか幼稚園まで下りてきた。保護者の要望が強いという⁽²⁾。

沿海部の大都市では豚肉を食べないだけ、イスラームの内容は何も知らないという回族も急増加中である。例えば、有名な北京の回族集居地である牛街でもイスラーム実践者は少なくなってきた（納静安 2011）。また、中国共産党に入党し（2012年現在、8060万人、2007年から5年間に1000万人増）（ビュラール：2012）、信仰を原則捨てた回族の共産党員もいる（澤井 2012：278-281）。中国では共産党員になることは栄達への道と解釈され、大学在学中に入党申請を出すものも多い。従って、回族と信仰の関係は地域間偏差、階層間偏差、家庭間偏差、個人間偏差が非常に大きく、一様に論じることはできない。

雲南の回族集居地域には、清真寺付属の「経堂」という学堂でクルアーン、法学、神智学等を学ぶというイスラーム教学の伝統が清代から民国時代まで連綿と続いていた（姚繼徳他 2005：86-106）。1950年代後半の反右派闘争から文化大革命収束（1976年）まで、イスラーム教育はほぼ壊滅状態にあったが、改革開放後徐々に復活し、現在は中阿学校（漢語とアラビア語双方と社会常識を教えるためこう称される）としてさまざまな形態をとりつつ各地の回族集居地域で発展を遂げている。このような学校を「半宗教半普通的混合型教育」（納麒 2001：179-181）機関と規定する学者もいる。

修了者には義烏や広州で通訳業務に就き、大卒以上の高収入を得るようになったものもいる。これに注目し、中阿学校修了生からの仕送りで地方振興を目論む寧夏回族自治区呉忠市といった地方政府も出始めた。3000人の通訳が1億元を呉忠に還流している（蘇峰 2010）。他方で、近年ではアラビア語学校は金儲けの道具となり、従来の宗教心＝道徳心の涵養が疎かになっている、という批判も内部から相次いでいる（松本 2010a）。

2. 雲南省巍山県永建鎮東蓮花村東蓮花清真寺と中阿学校：地元密着の学校

1) 経済力とイスラーム復興：歴史からの逆照射

位置：東蓮花村は、かつて蒙化とよばれた地域の一部で、現在は巍山回族彝族自治县永建鎮の北部の盆地、温暖な田園地帯にある。場所としては一番近い大都市の大理市下関まで、直線距離で25キロ、道路では60キロほどの距離である。しかし、道路整備が遅れ、アクセスはよくない。付近には小園埂、大園埂、回輝登、米姓廠といったイスラーム信仰・実践がさかんな回民村が数キロ以内に点在している。

回民起義失敗後：巍山の馬幫（小型の騾馬、馬を連れ細い峻険な山道を抜けて物資を運ぶ隊商）は明代から始まり清代に最高潮を迎え、ビルマ国境を越えて「回民起義」の杜文秀政権を支える対外交渉を行っていた（姚繼徳 2002）。清末の雲南「回民起義」（1856-1872）ではこの地域の回民は徹底抗戦した杜文秀側についた。最終的に清朝の徹底的殲滅に遭い、村は焼き払われ焦土と化し

た。例えば、付近の小園埂村には起義以前 1500 戸以上が存在したが、残ったのはわずか 28 戸のみ、殺し尽くされた人々の遺体は「万人坑」に投げ込まれ、1980 年代でも 400 戸余に迄しか回復していなかった（米如琳 1985）。大理州全体では、1873 年以前に回民人口は推定 26 万 1 千人であったものが、1980 年代で 5 万 2 千人、巍山県では 1873 年以前推定 5 万人が、1980 年代 1 万 6 千人余りで、1 世紀を経過しても清代の人口を回復できていなかった（馬守先 1985）。生き残った回民は土地を「叛産」として没収され小作で食い繋いだり、「殺され損ない」と蔑まれたり、棄教や養豚、飲酒を迫られたり、清真寺再建にも付近の漢人住民から難癖をつけられたりと侮辱・差別を受け続け、赤貧洗うが如き生活を強いられるということが 1920 年代まで続いた（伏波 1985）。

東蓮花村では「回民起義」では馬姓の 2 名だけが生き残りここに定住した。別の場所に逃亡し生き残った張姓のものも合流した（馬永歆 2012）。東蓮花村の清真寺は清代初期に建てられたが、「回民起義」失敗で灰燼に帰した。生き残った回民は土地を買い戻したり、訴訟を起こしたりして徐々に土地を取り戻した。1921 年に清真寺建設工事を開始し、民国期の 1924 年に 3 年かけて現在の形となった。

民国時代の村の発展：巍山の回民村はいずれも民国時代に馬幫⁽³⁾の拠点だった。各村に再建された清真寺は苛烈な虐殺を生き抜いた回民たちの精神的拠り所であった。現在の東蓮花村は、12 平方キロ、270 戸、人口 800 ～ 1000 の全て回族からなる小集落である。2007 年に「巍山県文物保護単位東蓮花回族古民居建築群」として「中国歴史文化名村」に認定され（雲政発 120072 9 号 2007）、民国期以来の古い町並みの保存と観光開発に力を入れている。特に、「馬家大院」（1941 年完成）という豪華な建造物が文物単位に認定されている。「馬家大院」は、内部は木造、外部は土壁と石で固められた四合院タイプの 4 階建ての広大な建物で銃眼を備えて一見要塞のようである。

馬幫による跨境経済：清末から民国初にかけて苦渋を舐め続けた回民社会の再生は馬幫による経済活動によった。「馬家大院」をつくった馬如驥（1897-1983）は、民国初期に兄弟の馬如琪、馬如嚶とともに馬幫の大元締め「大鍋頭」であった。彼らは、ここから国境、省境を越え険しい山道を歩き物資を運んで財をなした。まず雲南省政府主席龍雲と知己を得て龍家の馬幫となった。かつてこの小さな村で 50 戸が馬を飼い 350 匹の驛馬・馬がいたという。村には 7 人の「大鍋頭」がおり、100 人の引き手がいた。省内はもちろんチベット、四川、貴州、桂林、広州、タイ、ビルマ、ベトナムなど東南アジア諸国に行き、商品を売り捌くと同時に新知識や新製品も仕入れた。先進的な外国文化が流入した東蓮花村は「小上海」と呼ばれた。ちなみに 1949 年以前には巍山全县で長距離の馬幫は 665 戸、驛馬・馬は 4500 匹以上おり、そのほとんどが回族であった。一大運送業集団であったといえる（姚繼徳 2002）。

馬兄弟は、さらに国民党国防部長の白崇禧（回民）と知己を得、抗日戦争中にビルマ・雲南間の「援蔣ルート」の軍事物資輸送を担った。「馬家大院」の「名道至遠」という匾額は 1939 年に白崇禧

本人が訪問時贈ったものである。もちろん、抗戦協力の功を労うためである。馬兄弟の抗戦支援とは、以下のようなことであった。1938 年に騰冲、龍陵が日本軍により占領、保山も何度も爆撃を受けた。援蔣ルートは爆撃・寸断され、後方の抗戦物資の運送は困難となり、日本軍の作戦は一見成功したように見えた。しかし、峻険な山岳地帯の細い山道を辿る馬幫は日本軍に発見されにくく小回りが利き、重慶国民政府側に軍事物資の輸送手段として珍重された。馬幫はビルマー昆明ー広東ー重慶に至る遠距離を軍事物資・生活物資を運んだ。リスクが高い危険な仕事の報酬として馬如驥ら 3 兄弟は莫大な財をなした⁽⁴⁾。なお、抗日戦争期、雲南の馬幫



写真 1: 東蓮花清真寺のマナーラ

は回民が95%を担い、荷車1000両余、騾馬・馬1万匹以上が動員され、戦略物資1200トン運んだ(楊兆鈞1989:282-283)。

教育振興:馬如驥は民国時代この地域の郷長を務め、村人の信頼が篤かった。幼時からクルアーンとイスラーム教義を学んだ敬虔で信義に篤いムスリムであった。他の回民「大鍋頭」も馬幫で蓄えた経済力で自分の村のイスラーム振興、特に教育振興に力を入れた。雲南「回民起義」失敗後、回民が政治、経済、文化上の諸権利を制限・剥奪され、貧困と被差別の地位の甘んじてきたことを反転しようという目論見であった。馬如驥の巨額の寄付もあり、1924年には東蓮花清真寺が竣工し、偃珍富(1878-1960)という卓越した阿訇がこの清真寺の学校で教えるようになった。彼は「貧、愚、卑」に苛まれ弱体化した回民の地位向上のため「自強自救」を打ち出し中阿兼学と男女平等も唱えた(馬存兆2000:136)。四川の西昌市出身の学生も3人いたという(東蓮花清真寺 提供史料2008)。

さらに、1943年という抗日戦争中の最も困難な時期に、巨額の出資で「蒙化私立興建中学」を作った。ここでは漢語とアラビア語を同時に教え、その他、数学、地理、歴史、体育、音楽等のカリキュラムを備えていた。当時の高名な阿訇納潤章(1900-1971)を日本の爆撃に晒された保山から迎え校長とし、省内外から教師を集め、アラビア語文法、会話、読本、教義、論理学、修辭学、イスラーム法、イスラーム哲学、体育を教えた。5年制のこの学校は評判を呼び、学生は雲南中から70余名集めた(納潤章1964(1985)、楊兆鈞編1989:314、維駿2004:615、姚繼德他2005:240-241)。さらに女学も開設した。

写真は1947年、漾濞、下関(大理)、喜洲(大理)出身の修了生「喚醒穆民」「振聾発声」「興教先声」「教化丕宣」などと書かれた旗を送った記念写真である(Pickens Collection, Harvard University)。彼らは雲南省内、国境を越えてビルマ、タイに阿訇、アラビア語教師、小学校教師として赴任し、その総数数百人に上る(東蓮花清真寺 提供史料2008)。

しかし、国民党と共産党の内戦(1946-1949)と1949年の中国共産党の政権奪取に伴い、タイに移民するものが続出した。王柳蘭の研究によれば、中国共産党の政策は「資本家」に1948年ごろから悪評で、財産没収や階級間の嫉妬を巧みに利用しながら地主を打倒するなどの冷酷なやり方を伝え聞き身の危険を感じた国外への逃亡者が引きもぎらなかつた(王柳蘭2011:83-91、243-244)。馬如驥もその筆頭で、1948年にまずビルマに居を移し、その後タイに移住した。タイでもイスラーム文化と中国文化教育に心を砕いた(馬永欽他2012)。

2) 経済力とイスラーム教育

1924年に竣工した東蓮花清真寺は文革では幸いに全面的破壊を免れ、改革開放後改修され宗教活動の場として復活した。現在の清真寺への寄進・寄付は、清真寺管理委員会によって管理され



写真2: 私立興建中学の学生 1947年 Harvard Pickens Collection



写真3: 私立興建中学の学生と教師 1947年 Harvard Pickens Collection

ているが、年を追って増加する様相を呈しているのは他の回族集居地域と同じである。また、ここでは、海外教胞からの寄進も多い。2009年の開齋節（ラマダン明けの祭り イード・ル・フェトル）では、天課・セ貼（ザカート、ワクフ、サダカ）が108件、計49250元（日本円1元＝14円として、689500円）集まっていた（清真寺内の掲示板による）。清真寺への寄付はこれ以外の機会、例えば新教学楼や清真寺の改築・増築などの機会にも集められる。天課は阿訇、中阿学校教師の給与や、清真寺の諸経費、各種社会事業などに清真寺管理委員会を通して公正に使われることになっている。

現在馬幫は廃れ、村の経済は農業、商業、出稼ぎ者からの仕送りが中心である。特に周辺地域から集めた菜種搾油業が盛んで、その風味のよさ、品質の良さから、省内の大都市の昆明や下関（大理）でも高値で取引される高級品である（馬永歆他 2012）。

3) 東蓮花中阿学校の実際

この清真寺内には中阿学校がある。公立学校と変らない規則⁽⁵⁾や教学規劃も存在する。東蓮花中阿学校の教学規劃は次のとおりである。これらの内容は、別の中阿学校でもほぼ同じなので、以下、参考までに列挙しておく。

- (1) 小学班 甲班と乙班 内容：イスラーム常識、発音、アラビア語アルファベット、フトバ、雑学（簡単なイスラームの内容を集めた文言集）講釈、学習の仕方
- (2) 基礎班 甲班と乙班 内容：イスラーム常識、クルアーン・ハディース、イスラーム法講釈、実施方法
- (3) 補習班 甲班：内容：イスラーム常識、発音、アラビア文字アルファベット、クルアーン・ハディース、イスラーム法講釈、実施方法
乙班：（老年班女）と丙班：（老年班男） 内容：イスラーム常識、クルアーン・ハディース、イスラーム法講釈、実施方法
- (4) 全日制班（4年コース）
初級班：（女） 内容：イスラーム常識、クルアーン・ハディース、信仰学、イスラーム法、アラビア語文法構造、イスラーム史、思想、品格と徳性など
基礎班： 内容：イスラーム常識、クルアーン・ハディース、イスラーム法、中国語、イスラーム史、文体論など
中級班：内容：イスラーム常識、クルアーン注釈、ハディース解釈、アラビア語文法基礎、アラビア語コース、イスラーム法、解釈、イスラーム史、法律法規常識、文体論など
高級班：内容：クルアーン学精釈、認主学（タウヒード論）、修辞学、論理学、「天方性理」学、イスラーム法分析、ハディース学のエッセンス、中国史・外国史、法律法規常識、品格と徳性など

11名の男女教師が、以上のように地元ムスリムのニーズ、年齢やジェンダー、レベルに合わせてクラス運営をしている。1)～3)は短時間教えるだけの「塾」形式だが、4)は全日制班で、高級班に至るまで4年間の全日制宗教教育が行われている。東蓮花村は小さなコミュニティで、他地方出身の全寮学生は存在しない。さらに研鑽を積みたい学生がいれば高次の宗教教育機関（後述の昭通や沙甸の中阿学校など）に送り出す。逆にいえば、地域のニーズに密着しており、この村の宗教的結束を固めるためには不可欠な存在といえる。

4) 教師（ウスターズ）ZXyさんとのインタビュー

以下に女性教師ZXyさんとのインタビューに基づき再構成してみよう。彼女は当時（2009年9月21日開齋節）33歳、娘1人12歳（初中1）の母親でもある（以下括弧内は筆者による補足：21歳で子どもを産んだことになるので、20歳ごろに結婚したということになる）。

学歴について：彼女は地元の初中卒業後、雲南南部の回族集居村、沙甸で男性・女性向けに開講

されていたムスリム教育基金会の初級班で学んだ⁽⁶⁾。当時、ムスリム教育基金会の初級班の教師にはサウジアラビア、シリア、パキスタン、マレーシアなど留学経験者が多かった。基金会で学んだ後、この東蓮花清真寺の高級班（前出）で学び、阿訇賞を獲得した。ちなみに、初級班と高級班の違いは短大と大学の違いのようなものということであった。

勉強のきっかけ、同級生について：初中的時に ZXy さんはたまたま沙甸に行く機会があった。回教が多く敬虔な雰囲気アラビア語学習が盛んな沙甸が気に入り、両親の猛反対を押し切って沙甸の学校で勉強を決めた。一方、高中（高校）の受験には失敗した。沙甸の教育基金会の学校には初級班と高級班があった。初中學歷は ZXy さんだけだった（他の人はもっと低い學歷だった）。教育基金会の学校でも経済的な理由で中退するものもいた。全部で3人の女性卒業者のうち、一人は子どもの面倒を見てくれる人がいないので現在教師をしていないが、もう一人は子どもを世話してくれる人がいるので今でも教えている。

学習班の構成について：現在の東蓮花清真寺では女学（女性の中阿学校）として既婚女性向けの「老年アラビア語学習班」婦女学習班（前出）が開かれ、女性は早朝と昼間に1コマ（1.5時間）ずつ計2コマ学ぶ。早朝に学習班に来て1コマ学んで、家にご飯を作り食後に帰り家事をして、午後また学習班に足を運んで1コマ学ぶ。その後家に戻って礼拝が既婚女性の日常である。参加者は70人である（既婚女性たちは女学でイスラームの真髄を学ぶという「言い訳」で家人から外出許可を得、束の間でも家事、家族関係の煩わしさから逃れ、同じような境遇にある女性たちと連帯感を紡ぎ、家庭でのイスラーム的道德の教育者・伝達者としての女性の使命感を共有していると考えられる（松本 2010b : 79)）。

ZXy さんは13年間この仕事をまじめにやってきた（結婚の20歳からずっとこの仕事を子育てしながら続けてきた）。クルアーン、ハディース、イスラーム教義を教えると同時に子どものアラビア語学習班も受け持っている。幼稚園から小学6年まで8つの班があり、公立小学校のクラスが下校後そのまま毎日のアラビア語学習班となっている。夏休みなど長期休暇中は1日中アラビア語の勉強をする。試験が半年に1回ある。子どもの学習班では清真寺の清掃活動もする。ZXy さんを含めて、この中阿語学校には3人の女性教師がいる。

教学の工夫について：子どもたちにアラビア語、イスラーム学習に積極的に取り組ませるためにインセンティブを与えている。1週間毎日来ると1元、皆勤賞が30元、罰金が2毛という風なのである。また、試験の成績優秀者には、1等が50元、2等が30元、3等が15元もらえる、というシステムを作っている。給与：通常夜だけ教えていれば給与150元であるが、それ以上教えれば給与以外に奨励金が50-100元出る。その他、米、大豆、小麦など穀類600キロが現物支給だ。小経（アラビア文字で漢語を標記する方法）を教えると200キロの大豆がもらえる。この現物給料の制度を改めて、統一して1000元の給与案が出ている、ということであった。

夫とのなれ初めについて：ZXy さんの実家はこの付近の農家で、父は小学校卒、母は初中卒であった。夫は漢族で実家の搾油業に出稼ぎで働きに来ていた。真面目で敬虔な回教に惹かれイスラームに入信し、父母が勧めて婿に貰うことになった。13歳の時婚約した。

教えることと子育てについて：沙甸の学校修了直後に結婚し、40日後にここで教えることになった。小学4年の班、婦女老年班を教えることになった。みな熱心に勉強をした。娘が生まれても近くに住む親に面倒をみてもらった。暇を見つけて授乳に家に帰ったりしていた。

仕事のスケジュールについて：ZXy さんは東蓮花の近くの回輝登の中阿学校でも教えている。早朝婦女班に1コマ教え、8時半に礼拝、9時に家で朝食を食べて、10時半に回輝登で教え、1時半に戻り、休憩後この東蓮花清真寺の婦女班で教え、夕方以降は小学班で教えるというめまぐるしさである。

自分の子どもの教育について、イスラーム化について：ZXy さんは1人娘についても将来は高中卒業後にイスラーム教経学院（中国政府系宗教学校）や海外留学させイスラームの勉強をさせたいと思っている。以前は中国のムスリマは蓋頭を被っていなかったが、イスラーム世界への留学組が帰国後みな被るようになった（外国の「正統」のイスラームの教えを改革開放後の留学組が伝えたとい

うことで、蓋頭は「新しい伝統」となったということを意味する。宗教を全否定した文革の反動も大きかったと思われる)。近年中阿語学校で学ぶ人が増えている(いわゆるイスラーム回帰、イスラーム復興現象。中国では近年意図的に「文化自覚」と言い換えられている)。巍山には22の回族村⁽⁷⁾がありそれぞれ清真寺があるが、ほとんどに婦女学習班(女学)がある。男老年学習班もある。ウスターズが礼拝の意義と意味、イスラームの倫理観を教えている。

女学について：女学は回輝登、小圃埂が有名で、多くの初中卒業生を全日制で受け入れ、全国から学生が来る。少し遠いが雲南中部の納家営(通海県納古鎮)の女校(女学)は条件が良いので評判がいい(海南省など全国から学生が来る。(筆者による2006年6月調査))。同僚のHYm、LYは納家営の女学修了後ここで教えている。女学を出た女性には任教の機会がある(「公立学校」の学歴は足りなくとも、必要とされ尊敬される仕事をし、経済的自立によってエンパワーできる(松本2010b: 95-99))。ZXyさんはこの方面でのパイオニアであるが、この仕事は大いに発展を遂げている(実際、回輝登、小圃埂、納家営、沙甸の女学出身者は海外留学をしたり、別の女学の教師になったりしている)。

アラビア語とビジネスの関連：ZXyさんの弟はまず東蓮花清真寺阿文学校の初級班に入り、その後北京第二外国語学院アラビア語学科で学んで後、サウジアラビアに留学した。広州、義烏、香港で働いた経験をもつ。弟の同級生には北京で貿易会社を営み、100万元の家、40万元の車を所有するものもいる。親戚の子も広州でアラビア語通訳をしている。アラビア語能力をつければ努力次第で階層上昇できる、ということは広く知られている(松本2010a)。

子どもたちの将来：ここの回族の子どもたちの将来の夢は家庭教育や家庭環境によって異なる。サウジアラビアに留学したいという子もいれば、(普通の)大学に入って公務員になりたいという子もいる。安定した給与を欲する父母がいる家だ。農民にはここに就いて農業を継いでほしいと考えているものもいる。

地方政府の管理：ここでは地方政府が宗教活動を上手く管理しており、政策と宗教活動の間の矛盾は今の所ない。青海や新疆のように教派が多かったり他宗教との兼ね合いが難しかったりする場所では問題が起きがちであるが、雲南はそのような問題がなく丸く収まっている。ムハンマドの誕生日を祝う聖紀節も22のどのモスクでも開催され、教民(ムスリム)が集まって預言者ムハンマドの品徳の高さを学ぶ。宗教管理政策でもこのようなことも許可されている(ちなみに開齋節(イード・ル・フィットル)は、回族集居地域では職場も公立学校も休日となる)。

インタビュー後の感想：女性の人間形成の場所、職業訓練の場所、自信と能動性を高める場所としての女学での学びについては既に論じたが(松本2010b)、このZXyさんについても同様のことがいえる。地元で13年間仕事をしている彼女は、コミュニティ(ジャマア)の中核的存在である。アラビア語学習班に通う老女たちや子どもたちも含め、村の誰もが彼女の教え子ということになるからだ。特に年長女性からの全幅の信頼と感謝、尊敬は、女性の家庭内・ジャマアでの高い地位の保証やジャマアの安定化に役立っているはずである。神を敬い畏れるという宗教知識を通じて、勤労の大事さ、質素さ、謙譲、謙虚、人間の尊厳、助け合いを教える彼女は、過度の物質至上主義、拝金主義、精神的墮落からジャマアを守る一翼を担っているともいえる。宗教実践に裏打ちされ、落ち着き払ったその態度や言動から、彼女もまた自分の仕事にやりがいと誇りをもち、自信に満ち溢れた人生を送っていることを窺うことができた。

3. 昭通市の中阿学校(1) ——毛貨街中阿学校：外に目を向けている学校

1) 毛貨街中阿専科学校の実際

位置と清真寺の歴史：雲南省昭通市は、省都昆明から北に500キロ、昭通—昆明間の飛行機や高速バスが行き来に利用されている。公式発表によれば昭通市は周辺も含めて582万人の人口をもつ

(市政府公式ホームページ、2004年統計)。市部(昭陽区)の人口77万5千人のうち回族人口は2万2千人に過ぎない。

訪問したのは、街のほぼ中心部にある毛貨街清真寺と附属の中阿専科学校と昭通市東大寺新光伊蘭学校(訪問時は、昭通市外国語学校)であった。昭通は都市再開発が進み、「現代化」が着々と進む街であるが、毛貨街清真寺は、区画整理途中の入り組んだ小路にある。毛貨街という名称は清末に毛皮加工業の回民が7戸あったことから名づけられた。清代にあった清真寺は「回民起義」制圧時に破壊され、毛貨街清真寺は光緒12年(1886年)に新たに作られた。1947年には回民30数戸、人口200人にまで増えていた(吳建偉編1998:94)。しかし、1949年以降、改革開放期を迎えるまでの約30年間宗教活動は振るわなかった。

学校の実際: この毛貨街中阿専科学校は初中卒業以上の学生を受け入れる4年制で全日制の所謂「高中型」の学校である。CYf先生、MLg先生、DLx弁護士(回族で清真寺の管理委員会の理事長)に話を伺った。CYf先生は河南省洛陽出身で、イスラーム法が専門、MLg先生は昭通出身であるが、内モンゴルの呼和浩特清真小寺や西安の民族中阿学校でも学んだという経験をもつ。DLx弁護士は、地元昭通出身、雲南大学で法律を学び、弁護士経験は30年になる。

彼らによれば、広域昭通地区では公式統計では回族人口は18万人だが、計画生育政策違反で出生登録をしていない子もいるので、20万人は下らないということであった。隣接する貴州省の回族集居地区を入れると約30万人の回族人口規模である。清真寺も政府が登記しているのは180箇所であるが、実際は200箇所以上あるということであった。

中阿専科学校の歴史: この学校は地元回族を中心に募金を集め、艱難辛苦の末に1994年に始められた。当初学生は80人しか集められなかったが、1996年には300名の学生を集め(宇鵬2007)、今日まで約15、6年の歳月を重ねてきている。時期は雲南他地域の納家営、沙甸等より遅い。当初は宗教知識を教える場がなく保護者が競って子どもを入学させたがった。

カリキュラム: カリキュラムは、1年目はアラビア語基礎や口語、2年目は、清代に出た漢語の経書の注解、伝統、イスラーム史を付け加え、3年になるとクルアーン、ハディース、イスラーム法の内容が多くなる。4年は(阿訇養成のための)高級班である。漢語を多用して、概念と思想を教える教授法を用いる。大半が3年で修了する。国内有名大学の回族学の専門家を招聘しての特別講義もある(ちなみに、筆者も講義をした)。イスラームの教えを理解・実践できるような人間らしい心をもった人を育てることに心を注ぎ、災害ボランティア、扶貧ボランティアなどにも力を入れている⁽⁸⁾。

卒業後の進路: 課程を終えると中国各地に赴任してイスラームの伝教者(阿訇、教師:ウスターズ)になったり外国留学(バングラデシュ、エジプト、パキスタン、シリアなど)したりする。2008年の約50名の修了生のうち40名の男子学生が別の農村の清真寺の阿訇になった。義烏、広州などで通訳業務に就くもの、外国の大学に留学し博士号をとるものもいる。貿易業務を始めた者の中には数百万円の年収を得るまでになった者もいる。全国から学生が集まっているので、ここで培った地域間・ムスリム間のネットワークが商売に生かしている⁽⁹⁾。高中に在学しつつ中阿学校で学んだものの数十人が有名大学の学生となって、在籍している大学のムスリム青年の信仰の中心的存在となっている(昭通毛貨街清真古寺管理委員会2010)。

昭通地区には、170の清真寺があり、170人の阿訇が必要だが、宗教界には1000人いる。1人

昭通回族10-11学年第一学期期末考试科目表

	男一	男二	男三	女一(1)	女一(2)	女三	四年级	监考名称
星期六	阿语	阿语	阿语	阿语	阿语	阿语	经注	苏鑫 马雷 晓琴 孙峰
		古兰	古兰			古兰		凌峰 玉田
	教义	语法	信仰	教义	教义	信仰	信仰	云飞 苏鑫 少峰 马雷
星期日	圣训	圣训	圣训	圣训	圣训	圣训	圣训	玉田 金忠 少峰 孙峰
		历史	比较			比较	素养	云飞 孙峰
星期一	汉语			汉语	汉语		优选	谢明 凌峰
	教法	教法	教法	教法	教法	教法	教法	晓琴 孙峰 金忠 凌峰
			经注			经注	古兰学	孙峰 马雷

注: 1 考试时间: 上午第一场: 8:30—10:00 第二场: 10:30—12:00 下午: 2:30—4:00
2 四年级“圣训”与“圣学”合并为一科。

写真4: 昭通中阿専科学校のテスト時間

の任教期間は3年間であるから、理論的には20年間に1回しか任教の機会がない（李正清 2008：366）。勢い、中阿学校を出たものは阿訇以外の職業の機会を求める必要が生ずる、という批判的意見もある。

学生の出身地：学生の出身地は、昭通出身地が半分、その他が全国各地から集まる。山西、内モンゴル、河南、甘肅、陝西、山東、寧夏、中には新疆各地からの回族生徒もいる。訪問調査では、ウイグル族学生には会わなかった。学生のみならず教員の出身地はさまざまである。この学校の教師は男16、女3名計19名いるが、出身地は全国に渡っている。

学生の学歴：学歴は中卒が60%、高中卒も一定比率おり、大専（短大）出身者もいる。年齢は15歳から20歳前後である。大学受験に失敗したり大専を出ても仕事がなかったりしたものもいる⁽¹⁰⁾。しかし逆にこのような中阿学校に入ること、唯一の神を信じ、信義、信頼、謙譲、謙虚の心を重んじる「真のムスリム」となった彼ら／彼女らが活躍できる空間は広がる。無神論者や他宗教信仰者が参入できぬムスリムのみで通用するニッチな社会領域があるからである。「信仰があれば飯が食える」のである。

学費：学費は1年目が500元、2年目からは無料。生活費（寮費・食費）は月100元である。昭通は経済水準が低いので、学生の家庭環境を考慮して低く抑えている。この地域は交通不便で経済的にも遅れているが、宗教への情熱は高い。学校経費は毎年50万元以上かかるが、清真寺の不動産収入は3万元に過ぎず、残りの学校経費は全て昭通的回族からの天課（ザカート、サダカ）で賄っている。回族は数十戸に過ぎず、みな一般労働者で家具や家電などもない家も多い。収入の半分以上を学校に寄進する篤信のものもいる（宇鵬 2007）。倫理的人間を育てるのが目的なので、職業学校ではないと考えている。

教員の給与について：数百元に過ぎない。その能力で広州や義烏に行けば、月3500元以上は稼げるが、教育活動に使命感をもっているのが、現状で満足している。

学生募集について：学生募集は宣伝を特にしていない。卒業生・在校生が新学生を連れてくるという口コミ方式である。きょうだいで入学するものもいる。現在270名の学生がいる。事実上の無試験で来るものは拒まず、というスタンスである。学力・態度面で劣っている学生もいないでもないが、宗教教育を実践していくうちに、見違えるようにまじめで規律正しくなり、勉強好きになっていく。教学のレベルも大専（短大）レベルに達しているという（宇鵬 2007）。女性は蓋頭、男性は回民帽とよばれる帽子が「制服」である。特別な時には長いイスラーム服を着ることもある。

回族が抱える問題について：回族の宗教に覚醒した人々は次のような危機感を持っている。第一に通婚問題、第二に大都市で青年が学んだら出身地に帰らない問題、第三に家庭教育の問題、第四に信仰の問題である。第一の問題と第二の問題は相関している。すなわち、都市の大学や職場で出会った漢族と回族の男女の恋愛結婚が増えている。それによりイスラーム的人間観が拝金主義的かつ唯物論的漢族文化に併呑され、回族は漢化・世俗化してしまう。世俗化の波は、第三、第四の問題も顕在化させる。親が信仰内容を知らなければ、家庭で子どもに教えるの良さを伝える機会はない。公立学校では宗教教育は一切ないので、子どもは「回族」民族成分の意味が不明となったり、唯物論の影響から信仰自体を拒否してしまったりする。結果的に宗教は周縁化し「回族」は消滅するか満族や苗族のような記号的存在となる運命を辿る。大学進学に反対でないが、漢族と激しい競争に身を置き、マイノリティとして都市に埋もれる結果（神を畏れず、奉仕の精神に欠く自己中心的な）漢化を余儀なくされる。その結果、綿々と引き継いだ信仰が理解できなくなる。

2) 毛貨街中阿学校でのアンケート

筆者は、この学校で学生にアンケート調査をさせてもらった。男女、年齢、出身地、家の仕事や学歴のほかに回族アイデンティティを意識しはじめたきっかけ、困難なこと、相談相手、回族らしさとは何か、といったことを質問するものであった。

ここで明らかになったことをかき摘んで紹介すると、以下のとおりである。

回答者は35名で男性12人(34%)、女性23人(65%)、10代が7名、20代が26名、無回答が2であった。出身地は、雲南13(37%)、新疆9(25.7%)、山東4(11.4%)、河南2、寧夏2、内モンゴル1、陝西1、貴州1、未回答1であった。新疆ではイスラーム宗教教育はほとんど禁止なので、つてを使って昭通の学校に来ていることがわかる。

家庭の仕事は、農民が24(68%)、个体戸、労働者がそれぞれ3(8%ずつ)である。テレビ、携帯電話などはほぼ100%所持しているが、ガス8人(22%)、上下水道5人(14%)とインフラ整備が比較的遅れている農村・貧困地域出身者もいることがわかる。

また、自分が回族と認識したのは父母からと29人(82%)が答えた。イスラーム文化に誇りを持つ、と答えたものは26人(74%)である。将来子どもを持つとすれば学歴はどのくらいまで、との問いには、大学が12人(34%)、大学院(博士)が11人(31%)、双方合わせて23人(65%)と、高い学歴志向を示した。これは、自分の希望を反映したもので、回答者に農民出身が多いことから、経済的問題から大学進学が叶わぬ夢であった自分の姿を投影しているものと思われる。それは次の困難なことに関する答えからもわかる。

困難なこと(複数回答可)は、仕事がない15人(42%)、収入が少ない12人(34%)、将来が見えない8人(23%)、家族の健康問題6人(17%)、結婚問題7人(20%)などが多く回答された。経済問題が重くのしかかり、学費の安いこの学校に来た、また回族同士の結婚相手を見つけることの困難さという背景も透けてみえる。

困ったときの相談相手は家族17人(48%)、回族友人13人(37%)と続き、漢族友人6人(17%)を大きく引き離れた。家族はほぼ100%回族か改宗ムスリムなので、問題解決は回族の中でなされることが多いことがわかる。

「回族らしさとは何か」、という問いに対して、20名(57%)がイスラーム信仰と答えた一方で、名称だけと答えたものも5名(14%)いた。彼らは中阿学校在籍という環境上、イスラーム習慣と信仰に従った生活をし、アラビア語をある程度理解できている。

また、「成功するために重要なことは何か」との問い(複数回答可)については、個人の才能18人(51%)、努力24人(68%)、学歴3人(8%)に対し、信仰が33人(94%)と格段に高い。行きたいところは国内では義烏8(22%)で上海、北京、広州を押さえ、外国ではマレーシア21(60%)、エジプト17(48%)、サウジアラビア7(20%)と続く。

信仰深さが成功につながる、というのは、中阿学校生の信念であろう。さもなければ、高中・大学進学を諦めて遠路はるばる昭通にやってきて、難しいアラビア語を学ぶべく規律厳しい寮生活をする必要はなかろう。また、義烏人気はここでも高い一方で、マレーシア留学の夢もまた多く語られる。治安がよく距離的にも近いイスラーム世界で、英語も学べ漢語も通じる、という身近さがマレーシア人気の秘密である。

なお、「回族らしさとは何か」、という質問に対する代表的な記述は次のとおりである。

Aさん:思うに、真の回族とは自身が特別にもっている文化と伝統を保持し、自民族の信仰をしっかりと守る人である。イスラームは、物事を処理し人と接する際、回民の生活の指南となるはず。そのようであれば、他民族は二度と回族あるいはイスラームを野蛮で無知などと誤解しないだろう。回族の人々は同化されえな
い、しかし同化は私たちの目前に差し迫っている。

Bさん:真の回族とは自分の文化や伝統、習慣を守り通し、イスラームの教えを守り、それに従って生活する人のことである。

Cさん:正しい信仰を有し、信仰と行いが一致していて、善美を尽くす人のことである。

Dさん:品行方正、言葉使いが美しく、人となりが善良で、社会的に認められている。

批判的な意見もある。世俗化や「回族」の単なる記号化への警戒である。

Eさん:回族とはただの一民族の名前に過ぎない。真の回族とは特に自分の文化や歴史を理解し、アラブ文化を



写真 5：回民起義殉難記念碑「烈士坊」

継承する人のことであるが、真の回族が必ずしもムスリムを代表するとは限らない。

Fさん：イスラームを信仰することは回族の責任であるが、回族はムスリムを代表しないし、ムスリム全てが回族ではない。回族とは一族の代名詞で、イスラームを代表するものではない。

Gさん：回族は過去にイスラームを信仰する人の代名詞であったが、現在は一族の名前になっている。

3) 「宣伝欄」にみる危機意識

毛貨街は非常に狭い小路であるが道沿いのイスラームに関する宣伝欄には、次のようなことが黒板に書かれていた。現在の回族が置かれている政治的、宗教的危機意識が表れていると思われるので、簡単にその内容を紹介する。それは、信仰がない回族も増えているという世俗化という

危機、回民帽や蓋頭を被っていると白眼視されることもあるという被差別・無知の問題の内容のほか、婉曲な政治批判もある。例えば、次のようなものである。

「政治家は政治信仰（主義や領袖）を他の信仰に取って代わらせたいと望む。しかし、主義や領袖は完全でも万能でもない。主義は修正され領袖は人に過ぎない。…欠点がない人はいない。領袖が神を作れるとでもいうのか？…強大な政党や政府も社会問題を解決できず、社会の不正を完全に無くせない。先端科学も自然界の謎を解き明かすことはできない。賢明な領袖にも欠点や誤りがある。一方で、神は全能であり、信仰者は物質ができぬことでも精神上ではできる。今世で出来ぬことも来世でできる。」（2009年調査資料）

体制批判かつ唯物論批判と取れる文章である。逆にいえば、印刷物という証拠が残らないものであれば、このような言論は人々の目に触れる所で比較的自由に発されている。現実の中国の政治・社会状況と信教自由の根本的矛盾は広く理解されている。だから、他エスニシティに比べて比較的宗教管理の緩い回族がイスラームに回帰することは、倫理観が破綻し、混迷を深める中国社会で生き抜き、現状打破するために必要と理解されている。

4. 昭通市の中阿学校（2）：ペルシャ語も教えるイスラーム学校

町の中心部にある昭通清真東大寺に隣接する中阿学校（現、昭通東大寺新光伊斯蘭学校）もあるということで訪問した。2003年に再建された昭通清真東大寺に付属している。ここには「回民起義」時代この敷地内に逃げ込み殺されたり井戸に身を投げたりして犠牲となった数千人の回民犠牲者を弔う殉難記念碑がある。150年以上も前の体制の手による惨事を子々孫々に涉って記憶しようという意志を感じさせる大きな建造物である。

面会したHXm校長は青海省西寧出身者である。学生は120名、全寮制で男性のみである。雲南、青海、甘肅、河南などの学生が来ており、昭通のものは少ない。2001年にできた5年制学校である。卒業生は阿訇、教師、または義烏、広州などで通訳業につく。学生の学歴は初中、高中、大専卒など一様でない。1学期の学費は食費・宿舎費込みで1000元。1年は2学期制なので、1年間2000元の学費である。毛貨街中阿学校とほぼ同程度となる。

HXm校長は着任して3日目、ここに来るまでは、甘肅省の臨夏回族自治州の学校でアラビア語と

ペルシャ語を教えていた。2001年にイランにいき、2007年に帰国した。コム・イマーム・ホメイニ大学でイスラーム哲学を専攻した。その頃ゴルガン、マシュハド、コム、イスファハーンなどイラン各地に中国人留学生は200人ぐらいいた。

昭通ではイランで盛んなカラーム（神学）をあまり教えない。ただ、ペルシャ語を学ぶと仕事の選択の幅も増えるので、他の中阿学校と差別化を図ったカリキュラムを組んでいる。中国の伝統的経堂教育ではペルシャ語も重要だった。必修本にペルシャ語のサアディーの『ゴレスタン（薔薇園）』もあった。この学校では経堂教育の改革を目指し、存在一性論の宇宙観を示した『天方性理』（清代の劉智作）も教える。校長はペルシャ語を教えるが、他に18人の青海、臨夏などにある国内の中阿学校を卒業したアラビア語の教師がいる。

サウジアラビア留学組がサラフィーヤ（原理主義的イスラームで女性の権利を制限したり、女性に黒いアバヤを強制したりする）を持ち込んでいるが、あれは穏健な中国イスラームの伝統に反するものである、と校長も管理委員会の委員も力説していた⁽¹¹⁾。

募集広告を打っていないのは昭通中阿学校と同じで、みな口コミでやってくる。女性の募集は男性の教学が定まってからと考えている。清真寺管理委員会にはもと企業経営者や小企業経営者が関わっており、周辺の回族ムスリムからのザカートやサダカを管理している。

以上のように、昭通の二つの中阿学校では、教師も学生も流動性が高い。学生は卒業後も高い流動性を持ち、海外・国内各地に散っていく。教学内容でも他の中阿学校と違う差異化を図っていること、学費が安いこと、ザカート、ワクフ、サダカで経費が賄われていること、学生には比較的貧困家庭出身者、それも農民が多いこと、「回民起義」被害やその後の被差別に対する歴史認識が深いこと、政治批判やサラフィーヤ批判も辞さないほど宗教意識が高いこと、さらには中阿兼学という伝統的雲南学派を現代的にアレンジして復活させようとしていることが特徴である。

5. 沙甸の場合：文革時の惨殺の記憶、改革開放と宗教復興、宗教教育

1) 二つの虐殺の記憶：歴史からの逆照射

雲南南方の沙甸の例を紹介しよう。この地は、イスラーム信仰とイスラーム教育が盛んな地で、清末、民国時代から多くの人材を輩出している。エジプトのアズハル大学に留学し中国語版クルアーンの翻訳で有名な馬堅の出身地でもある。現在の沙甸は2011年統計で約4300戸、人口約15000人（内、回族は3500戸余り、13000人余り）の町で、地区での回族人口比率は85%である（石雲2012）。

明代からの回民が居住したとの記録があるが、「回民起義」失敗で各地に逃亡・離散した回民が清末から民国初期にかけこの村に再集結・移住して以来、村が大きくなった。巍山と同様に人口減少、被差別と貧困に苛まれた回民が辿り着いた安住の地が沙甸であった。彼らがまず始めたことは馬幫や農耕という仕事とイスラーム振興事業であった。

1949年の調査によると、沙甸には900戸以上、5000人の回民がいた。当時から教育熱心で、ほとんどがアラビア語の基礎力を持ち、中阿学校に男女が学び（専門部28人、女生部130余人、補習部100人）、街に茶館は1軒しかなく、飲酒、賭博、タバコの習慣がなく、仕事熱心で、人々は1日5回の礼拝を欠かさず、街全体が清潔でイスラーム色が非常に濃厚な街であった。特筆すべきは、女子学生の方が男子学生よりも多いということだった。男子は馬幫で外にでるので、沙甸外部の学校を進学先を選んだ。イスラームの学習を続けた女性は師娘（シーニャン）と呼ばれ、教えるのみならず社会的地位も高く、沙甸女子のよき職業となっていた（江応樑1950（1985））。女性の宗教教育によるエンパワーメントという観点からすれば、沙甸は先進地域であった。家庭教育の主役の女性がイスラーム文化を支えた。それは「回民起義」で多くの男性が死亡し、宗教知識と回民の絶滅の危機に瀕したという、1949年当時から数えて70数年前の悲劇の記憶を胸に刻んでいたという側面も見逃

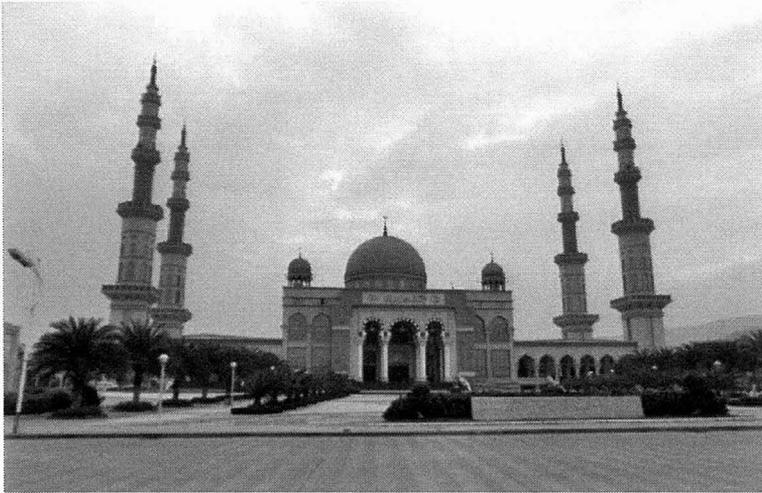


写真 6：沙甸清真大寺

せないであろう。

この地は文革末期の1975年の人民解放軍による回民惨殺事件「沙甸事件」の地としても知られている。沙甸の回民が「反革命武装叛乱」を企てているというかどで当時人口6000人の村に人民解放軍600人の部隊16個（すなわち9600人）が動員され7日間砲撃が続き、公式見解で900名以上、子どもを含めるとその倍以上が殺され、村と清真寺は徹底的に破壊・焼き払われた。「殲滅」という言葉がふさわしい。この事件に関しては、改革開放後「四人組の仕業」とされ「平反」（名誉回復）し冤罪と認定された。しかし、殺された無辜の民は帰ってこない。村を見下ろす

小高い丘の上には名が分かった人々の名前一つひとつを台座に刻んだ「殉教者」（シャヒード）を悼む記念碑が建てられている（馬萍2006、松本2010b、楊海英2012）。一家全滅で名も分からない人を入れると少なくとも村民の5人に1人が殺されたという統計もある。現在この村の住人で、親戚、友人をこの事件で失っていないものはない。住民は折に触れこの記念碑を訪れ、刻まれた親しい人の名前をなぞり事件の記憶を新たにす。そして、凄惨な事件の記憶はその時代に生まれていなかった若い世代にも引き継がれる。アザーン（アザーン）の音が拡大声器で鳴り響く、まるで中東にいるかのようなイスラーム色が濃厚なこの街では、女性の99%が蓋頭をかぶっている。

「回民起義」失敗と「沙甸事件」という百年を隔てた二つの虐殺事件の記憶とその継承は、沙甸の独特のイスラーム意識を高めるのに十分な役割を果たしている。

2) 経済力とイスラーム復興

沙甸に清真寺ができたのは明代のことであるが、康熙年間・乾隆年間に相次いで改築された。1000人を収容できたという清真寺は道光年間に改築され、1975年の「沙甸事件」時に破壊された。1981年に資金を集めて4000人礼拝規模のものを再建した（馬恒豊1994、呉建偉1998：98）。さらに2005年から6年の歳月をかけ2011年に完成した沙甸清真大寺は17700平方メートル、中国最大級の大きさのもので、10000人を収容できる。費用は3000万元（1円14円として4億2千万円）、資金はすべて地元のムスリム企業や個人からの献金・寄付である。明代から数えて6回目の改築である。被破壊と再建を繰り返してきた苦難の歴史を物語る。

これだけの費用をかけて清真寺を建立するためには豊かな経済力が必要である。

沙甸はもともと農業と馬幫を主体として生活を成り立たせていた村であったが、改革開放後大きく様変わりした。農業中心から1980年代の郷鎮企業経営の実験を経て、現在は工業・鉱業の民営企業が55あり、その中で、資産1億元以上が13ある。特に、有色金属冶金精錬業がさかんで、農村は現在大規模な工業区に変化しつつある（石雲2012）。経営者のほとんどが熱心なムスリムの回族で、多くの天課を清真寺建設や学校経営に拠出している。

そのトップ13のうち9番目の企業、個旧市聯興貴金属有限責任会社の役員回族W氏から話を聞いた。W氏は2012年時点で45歳、沙甸事件当時は8歳だった。彼も親戚、友人の多くをこの事件で亡くした。額にくっきりと二つの礼拝だこのある敬虔なムスリムであるこのような人は中国では非常に珍しい。会社は資本金3000万元、総資産1.9億元、2011年の生産高1.8億元（1円14円として252億円）、従業員は200名という規模である。1985年に郷鎮企業として設立され、現在は、銀のインゴット年間200トン、金のインゴット年間100キログラム、ビスマスのインゴット300トン（合金、冶金添加剤、医薬、化学試薬などに使用）、テルル（tellurium）年間3000キロ（半導体、冷却器に

使われるいわゆるレアメタル)の精錬生産している(個旧市聯興貴金属有限責任公司提供資料)。日本のM自動車会社ともかつて取引があったという。

さて、一般にムスリムは天課(ザカート)を2.5%支払うが、ある調査によれば、沙甸では1%に過ぎず、「宗教的寄付」の意味しかないという(鄭偉林他2011)。だが、巨額の儲けを出しているムスリム企業、ムスリム企業家の天課の額は多額である。例えば、付近の小規模の清真寺である白房子清真寺の2012年の開齋捐は全額で123万3253元(日本円で1元14円として1726万5542円)であるが、そのうち、大口で1万元以上の捐金をしたのは、10人、Wさんは2万元、Wさんの兄は10万元寄付している。他に各々20万元の捐金者は3人もいる。彼らは当然別の清真寺や中阿学校にも寄付している筈なので、彼らの年収たるや日本円で億を軽く越えるはずである。ちなみに、Wさんは高級車ばかり5台の自動車を所有している。

3) さかんなイスラーム教育

沙甸の回族企業家たちは複数の中阿学校にも援助している。Wさんらが援助して作ったのは、開遠阿專と個旧市沙甸特格瓦(タックワー)アラ伯語職業中学である(タックワーとはアラビア語で「神を畏れること、神を敬うこと」という意味である)。後者は、学費は半年600元(寮費込)。22名(内女性10名)いる教員の給料は2000~2500元、宿舍や光熱費は無料で、海外留学経験者がほとんどである。給料をある程度保証しないと義烏などに行ってしまう。学生は男240、女140で、全380名、学歴は多くが初中卒、たまに高中卒もいる。学費半年600元というのは水道代・光熱費に足りないほど安く、公立の高中よりも安い。教員は給料がまるまる貯金できる、という。卒業生は、義烏、広州で通訳になるもの、サウジアラビアのマディナに留学に行くのも多い。サウジアラビアは奨学金が多くでるからである。その他、マレーシア、シリアなどに留学する。阿甸になるものもある。年度によって学生数が違うが、大体300~400人である。学生の質は高い。

カリキュラムはクルアーン、ハディース、イスラーム法、クルアーンの詠み方など重点的に教える。その他、コンピュータ、漢語、体育などもある。3年間みっちり勉強して(時間割参照)修了となる。4年いると進修となる。非常に厳しい寮生活で、イスラーム的な精神を学び、人間らしい心をもった職業人になってほしいと考えている。

この学校は1982年から始め、1989年に形態を整え、1999年に紅河州教育局の批准を受けた。足掛け30年になる。始めたころは小規模であったが、次第に規模が大きくなった。寧夏、四川、貴州、河南、青海など全国から学生が来る。

沙甸清真大寺も幼稚園、小学生班、老年経学班、婦女経学班、専科といった各種の中阿学校を付属として持っている。この点は東蓮花清真寺中阿学校とも共通している。ただ、沙甸地域の公立中学でアラビア語を教えていることは特筆すべきであろう。例えば、沙甸の公立十三中学には1107人が在籍している。初中は648人である。90%以上が回族であるという状況を鑑み「基礎アラビア語」カリキュラムも併設され、義務教育を受けると同時に、基礎的なイスラーム文化知識と道徳規範を学ぶ(馬莎萍2012)。これは、中国では非常に例外的なことで、管見の限り沙甸と納家営以外にはない。イスラーム信仰・勢力を無視して地方政府は動くことができない、ということは沙甸事件から得た苦い教訓であろう。

注: 每周开设一次演讲课, 时间: 星期 六 日 一 二 三 地点: 阿拉伯教室 班主任: 鍾红梅							
	五	六	日	一	二	三	
年 級 女 生 (乙)	第一节	阿语	阿语	阿语	阿语	阿语	历史
	第二节	古兰诵	古兰诵	古兰诵	古兰诵	礼仪	阿语
	第三节	大扫除	教法	教法	教法	教法	教法
	第四节	大扫除	信仰	信仰	信仰	信仰	思想课
	第五节	信仰	书法	礼仪	历史	体育	
	第六节	阿语	阿语	阿语	阿语	体育	

写真7: 個旧市沙甸特格瓦(タックワー)アラ伯語職業中学の時間割

6. 宗教活動があまり盛んでない清真寺とアラビア語学校：末端の清真寺で

以上に見たように、回族社会の中で世俗化・漢化への恐れが強いことへの反作用として中阿学校が改革開放後盛んに作られ、宗教知識をもった人材を多く輩出してきたことがわかる。しかし、宗教活動があまり盛んでない地域では全く違う様相がみえる。南華県龍川鎮車子塘村の回族村と清真寺を例として挙げてみよう。

村民委員会の幹部によると、鎮の11個の村のうち3個が回族村である。その他は彝族、漢族村である。鎮の人口は620戸2596人、うち回族350人ぐらいである。主産業は農業でタバコの栽培が盛んである。商売をしているもの、出稼ぎに出ているものもいるが、大体雲南省内である。女性は家で礼拝しあまり清真寺にいかない。

MJp阿訇によると、この清真寺の歴史は古く、一番古い建物が400年前のものである。MJp阿訇は1980年代に巍山の小園埂清真寺で高名な馬雲從阿訇に学んだ。当時初中班で160-200人ぐらいの学生がいた。ここの阿訇を務めて7年目である。1日に5回礼拝し、夜の礼拝は1時間ぐらい、毎日約70人がやってくる。開齋節は270-300人ぐらいくる。聖紀節はもっと多く、7-800人来る。清真寺の学校（経堂）があり、礼拝の仕方やクルアーンを教えている。また、長期休暇中の集中クラスもある。1日4時間、クルアーンのクラスには男子が多く来る。人徳、道徳などについても教える。土日の午後もクラスがある。教えるのは、阿訇1人である。ここに宗教を専門に勉強する全日制中阿学校はない。男子が多く来る理由は男尊女卑の考えがあるからだ。子供、初中在学中の子や老人がくる。女性教師はいない。

生徒たちは高中になると清真寺に来なくなる。実際、彼にも高中の一人娘がいる。大理、巍山、沙甸では奨学金を出すので大学生が長期休暇中清真寺に戻って勉強できるが、ここでは奨学金を出せないで学生は休みでも清真寺に戻らない。2011年に村から4人大学に合格したが、イスラームの学びを続けられなくなるのは頭痛の種である。進学すると礼拝しなくなり、イスラーム的行動様式、倫理、世界観は家庭内でしか学べない。礼拝をしないと人としての道を守れない。子どもの結婚相手はムスリムであることを父母は強く望んでいるが、息子たちは別の民族の子を見つけてくることもあり、嫁問題は深刻である。

マッカ巡礼者はこの村で今まで5人（女性1人）いる。年配の退職者が多い。3万元から4-5万元が必要で、この金が出せないでMアホンはまだマッカ巡礼を行っていない。

ここでは（世俗）教育熱は高い。初中を卒業すると中阿学校と高中という二つの道があるが、回族全体で前者は10%ぐらい、高中を中途退学してイスラーム教育を受ける子はこの地では0.5%ぐらいで1人いるかいないかである。女性は普段蓋頭をかぶっていない。

村民委員会では厳しい計画生育政策を施行している。回族の村長の家も女の子の一人っ子であった。主要産業は農業で天課もあまり集まらず阿訇自身も貧しい。世俗化・高学歴化・少子化と緩慢な宗教共同体の解体に打つ手が無いというのがMJp阿訇の悩みであった。

まとめにかえて

本論では、雲南の回民集居地域におけるイスラームと中阿学校の諸相を見た。非常に熱心な巍山、昭通、沙甸と、あまり熱心ではない南華県の例も挙げておいた。熱心な場所は、例外なく過去の大虐殺・被弾圧の記憶を新たにし、それをイスラーム復興・回帰へのバネとしている。さらに、雲南はもちろん中国各地からの学生を広く受け入れ、教員、卒業生の幅広いムスリム・ネットワークを駆使し、宗教活動を活性化させている。

しかし、この中阿学校という存在は宗教的エスニシティ回族の抱える問題が凝縮され透けてみえる場所でもある。それは、現代中国が抱える諸問題を映す鏡でもある。第一に、急激な世俗化と宗教

知識の形骸化、第二に、(世俗的) 高学歴化、第三に、都市への人口の移動、第四に婚姻問題と漢化の危機、第五に、計画生育政策に伴う少子化と宗教教育機関進学者の相対的少なさ、第六に、経済的格差解消への欲求からのアラビア語学習、宗教への回帰、第七に、相対的弱者である回族、特に女性のセーフティーネットである。

2000年代半ばに筆者が寧夏、青海、雲南の女学でアンケート調査をしたとき、きょうだい数は平均3.7人で、5人、6人もざらであった(松本2010b:82)。農村出身、貧困の中で苦勞をして中阿学校を修了した彼ら/彼女らが新天地を求めて2000年代に義烏や広州に行った。ここには全国の中阿学校出身や海外留学から帰ったアラビア語通訳が数万人いるという。彼ら/彼女たちに聞くと、やはり大多数が次の世代には大学もしくは大学院の教育を受けさせたいという。

計画生育政策が厳しさを増し、社会全体が経済的に豊かになると子どもの数は回族家庭でも1~2人に留まるようになった。2000年代後半からは中阿学校に進学者は回族青年全体からみれば条件の恵まれない地域・家庭に育ったものに限られるようになった。2000年代半ばから中国農村でも15歳人口の約半数が高中に進学、大学を目標にするようになったからである。2012年の「高考」の受験者は915万人、合格率75%前後である。ただ、最近は熾烈な競争を嫌うものや、レベルが低い国内の大学に進学するよりは海外留学をめざした方がいいと考えている高中生も増えている。高考受験者は2009年をピークに4年連続で減り、4年で約300万人が受験しなかった、という統計もある⁽¹²⁾。回族青少年にとっては学費低廉な中阿学校を修了後、奨学金豊富なイスラーム圏の大学を目指し、漢族の参入を免れる世界のムスリムとの関係を保ったほうが成功への「近道」という考え方も根強い。

貧困や低学力で自信を無くしがちであった回族青少年たちの中阿学校での学びを支えるのが、弾圧を生き抜いた敬虔な回族住民からの天課であったり、低給与ながらもやりがいを求めて誠心誠意働く阿訇や男女教師だったりする。客観的にみれば中阿学校の学生は「負け組」かもしれない。しかし、人々に見守られ支えられている、自分は神に守られた特別な使命を帯びた存在で、現世で善事をする事によって来世も幸せになれる、という自覚は、結果的に中阿学校の回族青少年たちに大きな自信を与え、次の世代の「真正なる」敬虔な信仰をもった回族を生んでいくことになるはずである。

注

- (1) 民族自治州・自治県であっても、彝族や白族のように「文字文化」の蓄積がないところでは、小学校低学年から漢語のみでの教育が進んでいる。2009年9月17日から20日まで筆者は南華県の山地を中心に6カ所の彝族の小学、初中の授業風景を見学した。また、いずれも校長もしくは担当教員ともインタビューした。どの学校においても、すべて小学1年生から漢語のみによる授業が行われており、どの学校にも「請講普通語」(標準中国語を話すように)という貼り札があった。子どもたちは家では彝語を話し、学校では漢語を話す、ということであった。教室の後ろには、漢語の作文が貼り出されてあった。彝語の文字がかつて「創造され」、民族幹部も雲南民族学院(現在は大学)などで学んでいるはずであるが、ほとんど使われないので、いまは誰も読めない状態である、ということであった。
- (2) 筆者による2009年9月19日雲南省楚雄市南華県五街鎮の私立五街幼稚園における調査。この五街鎮は、南華県城から直線距離で約30キロ、通常の道のりで約45キロの小鎮である。人口は17313人、彝族が89%を占める彝族集居地域である(2003年) <http://www.agri.com.cn/town/532324203000.htm> (2012年12月8日閲覧)。
- (3) 王柳蘭の研究・調査によれば、馬幫の実態は次のようなものである。雲南の物資を運び、それを国境地帯の山地民(多くがいわゆる少数民族)に売る。売った資金でビルマ、ラオス、タイの物資を運び、雲南で売りさばく。雲南からビルマ・ラオス・タイに運ばれたのはタバコ、茶、布匹、コメ、鉄・銅・鉛、銅鍋や錫鍋などであった。逆に雲南に運ばれたのは禁制品のアヘン、サイの皮、鹿茸(ロクジョウ:鹿の角)など森の産品、象牙、宝石や翡翠などであった。彼らにとって国境の山岳地帯は、商売と情報交換の場、旅の休息を得る場などであった。峻険な山道、南方特有の病気、盗賊の出没といった危険と隣り合わせの馬幫交易はそのリスクゆえに雲南ムスリムに富をもたらした(王柳蘭 2011:148-149、雲南巍山彝族回自治県概況編写組2008:197)。
- (4) 抗日戦争中の馬幫の戦略物資・日常物資については、(陸韜1995)に詳しい。
- (5) 班規は非常に細かいところまで目配りされている。欠席届の提出、規則の遵守、居眠り・お喋り・飲食の禁止、まじめな学習、喧嘩の禁止、切磋琢磨、学習計画、班長の責任(学習、労働、衛生)など。(以上、2009年9月調査)。
- (6) 沙甸清真大寺の掲示板によると、イスラーム教育が再開したのは1979年である。第一回卒業生が出たのは1985年である。また、(馬恒豊1994)によると、1989年に沙甸で「文書、阿語班」の生徒募集がはじまった、とある。なお、

官立のイスラーム教育機関「昆明伊斯蘭教経学院」が正式に始まったのは1986年、卒業生を出したのが1990年である(姚継徳他2005:349-350)。

- (7) 巍山の回民村は以下の通りである。①白沙村、②大五茂村、③小五茂村、④小圃埂、⑤晏旗廠、⑥大圃埂、⑦三家村、⑧馬姓、⑨米姓、⑩河底樹、⑪深河村、⑫甸中街、⑬巍山城、⑭新村、⑮西樹龍、⑯陳姓、⑰菁門口、⑱回輝登、⑲營尾村、⑳上西蓮花、㉑下西蓮花、㉒東蓮花。
- (8) <http://www.tudou.com/programs/view/Vti2cd8KLBk> (2013年1月2日アクセス)
- (9) 清真寺の寄宿学生の全国ネットワークについては、(澤井・高橋2012:322-326)参照。
- (10) 中国では一般的に高中に進学するという事は、大学進学が射程距離にあることを意味する。「高考」で一流、二流大学に合格しなかったものは、出稼ぎか職業学校か、商売をするか、それも出来ない「カス」のようなものが中阿学校に入ってくる、という自虐めいた話がある(珂白2007)。「彼らはいわゆる負け組」という話も筆者は別の中阿学校で聞いた。また、初中卒で「農民工」として働きに出るには若すぎるから、暫く中阿学校にいる、という話ももう一つの中阿学校で聞いた。ただし、高額な授業を払って大学を出ても理想のホワイトカラーになるチャンスが農村出身者に少ないという現実を考えれば、漢族で条件の整った環境で育った者たちと同じ土俵で競争をしなくても済むし、少なくともアラビア語という特殊技能を修得できるという意味で、人生一発逆転のチャンスを回族青少年に中阿学校が与えているといえるだろう。
- (11) 筆者が2007年3月に訪れた沙甸近くの鷄街にある「希大教育学院」は、サウジアラビアからの資金援助が出ているという話をきいた。校長もサウジアラビア留学経験者であった。もちろん、教派はサラフィーヤで、女子学生は目だけ出すアバヤが制服だった。
- (12) <http://news.163.com/12/0607/08/83CPEQ5T0001124J.html> (2013年1月4日アクセス)

参考文献

(アルファベット、ピンイン順)

マルティエヌ・ビュラール

2013 「中国共産党の秘密の世界」『世界』No.838。

東蓮花清真寺 提供史料

2008 「省級歴史文化名村東蓮花清真寺簡介」。

伏波

1985 「回輝登史実伝統札記」国家民委民族問題五種叢書之一 中国少数民族社会歴史調査資料叢刊『雲南回族社会歴史調査(二)』雲南民族出版社。

珂白

2007 「世俗社会大背景下的阿校教育困境和呼吁“高校”型学校的誕生」http://blog.sina.com.cn/s/blog_4cbcc2b701000acu.html (2012年12月26日アクセス)。

江応樑

1950(1985) 「滇南沙甸回族農村調査」国家民委民族問題五種叢書之一 中国少数民族社会歴史調査資料叢刊『雲南回族社会歴史調査(一)』雲南民族出版社。

李正清

2008 『昭通回族文化史』雲南大学出版社。

馬存兆編

2000 『大理市芝華回族史稿』(初稿)大理市芝華清真寺民主管理委員会。

馬恒豊

1994 「沙甸回族的宗教文化經濟生活」『回族研究』No.14.2006。

馬萍

2006 「解放軍による沙甸の大量虐殺」宋永毅編『毛沢東の文革大虐殺』原書房。

馬莎萍

2012 「解放後的沙甸漢文教育」『沙甸』No.1。

馬守先

1985 「大理州回族分布概況」国家民委民族問題五種叢書之一 中国少数民族社会歴史調査資料叢刊『雲南回族社会歴史調査(二)』雲南民族出版社。

馬永歡、馬克偉

2012 「馬背上的東蓮花」『回族文学』3期。

納麒

2001 『伝統与現代的整合——雲南回族歴史・文化・発展論綱』雲南大学出版社。

王柳蘭

2011 『越境を生きる雲南系ムスリム』昭和堂。

松本ますみ

2010a 「グローバル化と新しいムスリム・ネットワークの形成——浙江省義烏市における移民を中心に」塚田誠之編『中国南北の国境地域における多民族のネットワークの構築と文化の動態』課題番号19401046 平成19年度～21年度 科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究成果報告書。

2010b 『イスラームへの回帰—中国のムスリマたち』山川出版社。

Matsumoto, Masumi & Shimbo, Atsuko

2011 “Islamic Education in China: Triple Discrimination and the Challenge of Hui Women's Madrasas”, In Sakurai Keiko and Fariba Adelhah eds., *The Moral Economy of the Madrasa: Islam and Education Today*. London: Routledge.

米如琳

1985 「杜文秀起義失敗後、清朝政府对巍山回族地区發布的兩個告示一個執照」国家民委民族問題五種叢書之一 中国少数民族社会歴史調査資料叢刊『雲南回族社会歴史調査(二)』雲南民族出版社。

納静安 (Nisreen Patlararungwilai)

2011 「北京回族的文化伝達与変遷」『西北民族研究』No.69。

納潤章

1964 (1985) 「雲南伊斯蘭教簡史」国家民委民族問題五種叢書之一 中国少数民族社会歴史調査資料叢刊『雲南回族社会歴史調査(二)』雲南民族出版社。

陸朝

1995 「抗日戦争中の雲南馬幫運輸」『抗日戦争研究』3月30日。

蘇峰

2010 「吳忠“民間使者”架起中阿貿易橋梁」『寧夏日報』2010年7月29日。

澤井充生

2012 「イスラームを信仰する共産黨員」中国ムスリム研究会編『中国ムスリムを知るための60章』明石書店。

澤井充生・高橋健太郎

2012 「清真寺をむすぶネットワーク」中国ムスリム研究会編『中国ムスリムを知るための60章』明石書店。

石雲

2012 「沙甸概況」『沙甸』No.1 (創刊号)。

維駿

2004 「納潤章教長印象記」王子華、姚繼徳主編『雲南回族人物碑伝精選』下、雲南民族出版社。

呉建偉編

1998 『中国清真寺総覧続編』寧夏人民出版社。

楊海英

2012 「沙甸村の殉教者記念碑」『中国21』Vol.37。

楊兆鈞編

1989 『雲南回族史』雲南民族出版社。

姚繼徳

2002 「雲南回族馬幫組織与分布」『回族研究』No.46。

姚繼徳 李栄昆 張佐

2005 『雲南伊斯蘭教史』雲南大学出版社。

宇鵬

2007 「子的未来從這里開始」伊斯蘭學術 <http://zhongguoysl.bokee.com/6434017.html> (2012年12月26日アクセス)。

雲政発

2007 「雲南省人民政府關於公布巍山県東蓮花村等 15 个村鎮街区為雲南省歷史文化名村名鎮街区的通知」120072 9 号。

雲南巍山彝族回自治県概況編写組

2008 『巍山彝族回自治県概況』北京：民族出版社。

張立敏

2010 「回族経堂教育在民族文化伝承中的作用及挑戰——以雲南巍山県永建鎮為例」『学園』No.2。

昭通市公式ホームページ

2012 <http://www.zt.gov.cn/index.aspx> (2012 年 12 月 26 日アクセス)。

昭通毛貨街清真古寺管理委員会

2010 「昭通毛貨街清真古寺昭通中阿專科学校総合教学楼修建募捐書」。

鄭偉林・楊志銀

2011 「關於雲南沙甸“天課”的新制度經濟学分析」『雲南財經大学学報』(社会科学版) No.1.26, No.5。